

## 平成21年3月期 第1四半期決算短信

平成20年7月31日

上場会社名 株式会社ブルボン

上場取引所 東

コード番号 2208 URL <http://www.bourbon.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉田 康

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 財務管理部長 (氏名) 山崎 幸治

TEL 0257-23-2333

四半期報告書提出予定日 平成20年8月12日

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成21年3月期第1四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年6月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第1四半期	24,212	—	747	—	751	—	315	—
20年3月期第1四半期	23,249	4.4	286	△50.2	317	△45.6	87	△73.8

	1株当たり四半期純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	
	円	銭	円	銭
21年3月期第1四半期	16.34	—	—	—
20年3月期第1四半期	4.53	—	—	—

## (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	円	百万円	円	%	円	銭	
21年3月期第1四半期	54,065	—	27,667	—	44.2	1,237.08	—	
20年3月期	56,473	—	27,202	—	41.9	1,226.07	—	

(参考) 自己資本 21年3月期第1四半期 23,891百万円 20年3月期 23,679百万円

## 2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
20年3月期	—	5.00	—	6.00	11.00
21年3月期	—	—	—	—	—
21年3月期(予想)	—	5.00	—	6.00	11.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

## 3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円
第2四半期連結累計期間	45,930	—	△100	—	△150	—	△70	—	△3.63
通期	100,670	4.3	1,380	0.0	1,350	19.2	240	△40.1	12.44

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

## 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

新規 一社(社名) ) 除外 一社(社名) )

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注) 詳細は、3ページ【定性的情報】4. その他をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年3月期第1四半期 20,000,000株 20年3月期 20,000,000株

② 期末自己株式数 21年3月期第1四半期 687,165株 20年3月期 686,415株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 21年3月期第1四半期 19,313,210株 20年3月期第1四半期 19,260,114株

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 平成20年5月9日に公表いたしました連結業績予想は、修正していません。

2. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

3. 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 平成19年3月14日)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号 平成19年3月14日)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間におけるわが国経済は、原油価格高騰や原材料価格上昇の継続、サブプライムローン問題を背景とした米国経済の景気後退懸念などにより、企業収益の圧迫、民間設備投資の鈍化、個人消費の伸び悩みなど景気の先行きに不透明感が広がりました。

菓子・飲料・食品業界は、産地偽装問題などにより、あらためて企業の食品に対する安全・安心への取り組みに関心が高まるとともに、燃料や食料品など値上げの広がりにより消費者の生活防衛意識が一段と強まる状況となりました。

当社グループは、引き続き安全・安心・健康を基とした品質保証第一主義に徹し、価値ある製品の開発、サービスの提供に努めてまいりました。積極的に新商品の発売やリニューアルの実施、商品ラインアップの充実、テレビコマーシャルや消費者向けキャンペーンの効果的施策の実施、地域に密着した提案型の営業活動などにより、ビスケット品目、米菓品目、スナック品目、食品品目などが伸張いたしました。また、種々の原材料価格が継続して上昇するなか、製品規格の見直し、コスト削減活動、経費の効率的な使用などに努めてまいりました。以上の結果、売上高は24,212百万円(対前年同期比104.1%)、利益につきましては、営業利益747百万円(対前年同期比260.9%)、経常利益751百万円(対前年同期比236.6%)、四半期純利益315百万円(対前年同期比361.9%)となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、54,065百万円となり、前連結会計年度末比2,408百万円の減少となりました。これは主に、季節変動により受取手形及び売掛金が減少したことによるものです。負債は、26,397百万円となり、前連結会計年度末比2,873百万円の減少となりました。これは主に、借入金の返済があったことと法人税等の支払があったことによるものです。純資産は、27,667百万円となり、前連結会計年度末比464百万円増加し、自己資本比率は44.2%となりました。

(連結キャッシュ・フローの状況に関する定性的情報)

当第1四半期連結会計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、1,769百万円の収入となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益799百万円と減価償却費741百万円とがあったことによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは1,379百万円の支出となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出があったことによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは1,206百万円の支出となりました。これは主に、借入金の返済があったことによるものです。

以上の結果、現金及び現金同等物の四半期末残高は4,577百万円(前連結会計年度末5,428百万円)となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当第1四半期の連結業績は、売上高は概ね計画通りに推移し、売上原価は製造原価率の上昇などにより増加いたしました。増収による増益と販売費の減少及び広告費の使用月がずれたことなどにより、営業利益、経常利益及び四半期純利益ともに伸張いたしました。

第2四半期連結累計期間及び通期の業績は、景気予想の不安定さが増すなか、原材料等が更に高騰するものと予想されるため、平成20年5月9日に公表いたしました業績予想を修正しておりません。

#### 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号 平成19年3月14日）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号 平成19年3月14日）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

② たな卸資産の評価基準については、通常の販売目的で保有するたな卸資産については、従来、主として総平均法による原価法によっておりましたが、当第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日）が適用されたことに伴い、主として総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）により算定しております。

これによる、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

③ たな卸資産の処分に係るたな卸資産処分損等については、販売費及び一般管理費、営業外費用に計上しておりましたが、当第1四半期連結会計期間より売上原価として処理する方法に変更いたしました。この変更は、当第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日）が適用されたことに伴い、収益性の低下に基づく簿価切下げによって発生する評価損とたな卸資産の処分に係る損失を期間損益計算において同等の損益区分で処理する方法が適当であると判断したことによるものであります。

この変更により、従来の方法によった場合と比較して、売上総利益が131百万円、営業利益が21百万円減少しておりますが、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響はありません。

5. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成20年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,548	5,405
受取手形及び売掛金	9,148	11,358
有価証券	234	219
商品及び製品	3,326	3,260
半製品	250	258
原材料	2,596	2,378
仕掛品	475	493
その他	2,547	2,758
流動資産合計	23,128	26,132
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	7,342	7,226
機械装置及び運搬具	8,523	8,808
その他	7,431	7,132
有形固定資産合計	23,298	23,167
無形固定資産		
のれん	85	93
その他	579	568
無形固定資産合計	665	661
投資その他の資産	6,972	6,511
固定資産合計	30,936	30,341
資産合計	54,065	56,473

(単位:百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成20年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,954	8,927
短期借入金	2,178	3,198
未払法人税等	150	697
賞与引当金	332	823
返品引当金	132	155
その他	6,057	6,764
流動負債合計	17,805	20,568
固定負債		
長期借入金	2,318	2,419
退職給付引当金	5,349	5,363
役員退職慰労引当金	184	179
その他	740	740
固定負債合計	8,592	8,703
負債合計	26,397	29,271
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,036	1,036
資本剰余金	71	71
利益剰余金	23,451	23,229
自己株式	△ 270	△ 269
株主資本合計	24,290	24,068
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△ 307	△ 376
為替換算調整勘定	△ 91	△ 12
評価・換算差額等合計	△ 398	△ 388
少数株主持分	3,776	3,523
純資産合計	27,667	27,202
負債純資産合計	54,065	56,473

(2) 四半期連結損益計算書

【第1四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)
	当第1四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)
売上高	24,212
売上原価	14,565
売上総利益	9,646
販売費及び一般管理費	8,899
営業利益	747
営業外収益	
受取利息	5
受取配当金	26
為替差益	18
その他	34
営業外収益計	84
営業外費用	
支払利息	15
持分法による投資損失	15
開業費償却	33
その他	16
営業外費用計	80
経常利益	751
特別利益	
貸倒引当金戻入益	62
特別利益計	62
特別損失	
減損損失	12
その他	2
特別損失計	14
税金等調整前四半期純利益	799
法人税、住民税及び事業税	156
法人税等調整額	71
法人税等合計	228
少数株主利益 (△)	254
四半期純利益	315

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	799
減価償却費	741
のれん償却額	7
受取利息及び受取配当金	△ 31
支払利息	15
持分法による投資損益 (△は益)	15
減損損失	12
売上債権の増減額 (△は増加)	2,272
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△ 282
仕入債務の増減額 (△は減少)	27
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△ 491
その他	△ 633
小計	2,452
利息及び配当金の受取額	33
利息の支払額	△ 12
法人税等の支払額	△ 704
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,769
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△ 1,193
投資有価証券の取得による支出	△ 139
その他	△ 45
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,379
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の返済による支出	△ 1,000
長期借入金の返済による支出	△ 122
配当金の支払額	△ 83
その他	△ 0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,206
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 34
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△ 851
現金及び現金同等物の期首残高	5,428
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,577

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 平成19年3月14日)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号 平成19年3月14日)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

- (4) 継続企業の前提に関する注記  
該当事項はありません。
- (5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記  
該当事項はありません。

6. その他の情報  
販売実績

(単位：百万円、%)

事業の区分	当第1四半期連結累計期間	構成比
	(自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	
ビスケット類	16,984	70.1
米菓類	5,926	24.5
飲料・食品・その他	1,301	5.4
合計	24,212	100.0

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

ビスケット類は、合計売上高が16,984百万円となり、前年同期比108.5%となりました。

前期末の商品リニューアルの実施に加え、店頭での商品陳列を高める営業活動、消費者向けキャンペーンの実施、消費者ニーズにお応えした実質価値の高い商品開発やサービスの提供などを行いました。

ビスケット品目は、プチシリーズ、ファミリーサイズ商品、袋ビスケット、スイートセレクションシリーズなどにご好評をいただき大きく伸張いたしました。また、豆菓子品目は、夏季対応商品やソフトな食感の新製品を発売いたしました但し伸び悩みました。キャンデー品目は、キュービイロップ商品にご支持をいただきましたが前年同期を下回りました。デザート品目は、ひとくちタイプゼリーの発売や国産フルーツにこだわったギフト商品のリニューアルを行い前年同期並みの推移となりました。

米菓類は、合計売上高が5,926百万円となり、前年同期比98.1%となりました。

米菓品目は、3月に発売した越後街道シリーズに新製品を加え、商品ラインアップの充実を図りました。プチシリーズは、継続したご支持をいただき品目全体でも伸張いたしました。スナック品目は、プチポテトシリーズの新味によるバリエーション化を図り伸張いたしました。チョコレート品目は、和風素材の抹茶を使用した商品の発売や既存商品の活性化を図り前年同期並みの推移となりました。チューインガム品目は、エチケツト機能ガムのリニューアルなどを行いました但し前年同期を下回りました。

飲料・食品・その他は、合計売上高が1,301百万円となり、前年同期比83.9%となりました。

飲料品目は、競争激化の状況下で前年同期に及びませんでした。食品品目は、ミルクココアシリーズや和風ココアシリーズにご支持をいただき大きく伸張いたしました。また、通信販売は、企画商品にご好評をいただき、新規顧客の拡大などにより伸張いたしました。自動販売機事業は、多様な商品を総合的に取り扱うプチモール及びディズニー仕様の菓子自動販売機や交通機関への菓子自動販売機の積極的な展開を行い、設置台数の増加を図りました。

「参考資料」

前四半期にかかる財務諸表

(1) (要約) 四半期連結損益計算書

前第1四半期連結累計期間(平成19年4月1日～6月30日)

(単位:百万円)

科 目	前 年 同 四 半 期 〔平成20年3月期〕 第 1 四 半 期
	金 額
I 売 上 高	23,249
II 売 上 原 価	13,769
売 上 総 利 益	9,479
III 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	9,193
営 業 利 益	286
IV 営 業 外 収 益	91
受 取 利 息 及 び 受 取 配 当 金	34
そ の 他	57
V 営 業 外 費 用	60
支 払 利 息	8
そ の 他	51
経 常 利 益	317
VI 特 別 利 益	1
VII 特 別 損 失	22
税 金 等 調 整 前 四 半 期 純 利 益	296
法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税	21
法 人 税 等 調 整 額	176
少 数 株 主 利 益 ( △ )	11
四 半 期 純 利 益	87

(2) (要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

前第1四半期連結累計期間(平成19年4月1日～6月30日)

(単位:百万円)

	前年同四半期 〔平成20年3月期〕 第1四半期
	金額
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	296
減価償却費	713
受取利息及び受取配当金	△34
支払利息	8
売上債権の増減額	2,421
仕入債務の増減額	615
その他の	△2,253
小計	1,768
利息及び配当金の受取額	28
利息の支払額	△7
法人税等の支払額	△388
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,401
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△765
投資有価証券の取得による支出	△200
その他の	△134
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,100
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額	△0
長期借入金の返済による支出	△105
配当金の支払額	△81
その他の	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△186
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	9
V 現金及び現金同等物の増減額	123
VI 現金及び現金同等物の期首残高	7,644
VII 現金及び現金同等物の四半期末残高	7,768

(3) 前第1四半期連結累計期間(平成19年4月1日～6月30日) 販売実績

(単位:百万円、%)

事業の区分	前年同四半期 〔平成20年3月期〕 第1四半期	構成比
ビスケット類	15,655	67.3
米菓類	6,042	26.0
飲料・食品・その他	1,551	6.7
合計	23,249	100.0

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。